

新春特集

## 世界の博物館人 !!

岐阜県が生んだ 棚橋源太郎先生

岐阜県博物館開催準備室 宮崎 惇



岐阜県が生んだ、わが国博物館界育ての親、棚橋源太郎先生（1869～1961）の生涯について簡単に紹介したい。

先生は明治2年、岐阜県本巣郡北方村で出生、昭和36年、東京で逝去されたが、この91年間、はまさに明治百年を代表する人物にふさわしい。

先生は4才で郷里の藩校・化成舎に学び、北方小学校をへて、母校の授業生となり、ついで岐阜県師範学校に進み、付属小学校の訓導となり、さらに上京して高等師範学校に学び、兵庫・岐阜の各師範学校に教諭として勤務された。

明治32年再び上京して、高等師範学校付属小学校訓導となり、ついで東京高等師範学校教授となり、同校付属教育博物館主事を兼ねられた。

先生は教育界において早くから実物教育の重

要性を力説されたが、博物館と教育を結びつける直接の行動はここからはじまった。この付属教育博物館は現在の国立科学博物館の前身である。この頃から社会教育の必要性が認識された。

明治40年、文部省より教育学と博物館研究のため欧米留学を命ぜられ、帰朝して文部省督学官となり、東京博物館（現在の国立科学博物館）館長を兼ねられた。大正13年再び社会教育及び博物館研究のため欧米に留学し、帰朝後、赤十字博物館の創設にあたり、ついで同館長となり、次々と特別展を企画し、PRにつとめ、猛烈博物館人の名を全国にとどろかせ、昭和21年に及んだ。

この間、日本博物館協会を創立し、専務理事としてその経営にあたり、後に同会顧問となられた。昭和25年には博物館法案審議会委員となり、博物館法の制定にあたり、同法施行にもなって社会教育審議会委員となり、84才で再び立教大学の教壇に立ち、博物館学を論じ、8カ年間に在職された。

そして、博物館に関する通俗書や専門書、啓蒙冊子等13種を出版されている。また日本博物館協会主催の講習会等には、講師として、後進の指導にあたられた。

昭和33年、多年わが国の社会教育発展に努めた功勞により藍綬褒章を授与され、ついで翌34年には、国際博物館会議（ICOM）から世界で3人の中の1人として名誉会員に推薦さ

れたのである。

このように生涯の大半を博物館事業の振興に捧げられ、わが国の博物館界をここまで育てあげられた先生が、岐阜県出身であることは、私たち岐阜県の博物館人を勇気づけ、ふるいたせるものである。

筆者はこの冊子第1号から7号に、「棚橋源太郎伝」と題し、小学校時代までを執筆したが、事情あって中止のままになっている。どうしても、岐阜県人によって、先生の伝記を世に出したいという願いを持っているので、先生に関係する情報は大小にかかわらず教示賜わりたい。

## 棚橋源太郎先生略年譜

明治 2年 (1869)	6月2日		岐阜県本巢郡北方村で生まれる。(現在は北方町)
" 7年 (1874)		4歳	旧藩校化成舎に学ぶ。
" 9年 (1876)		6歳	北方小学校下等8級に入学する。
" 16年 (1883)	3月	13歳	北方小学校高等科を卒業し、母校の授業生となる。
" 17年 (1884)		14歳	督学官江木千之来校し、先生の授業をみる。
" 18年 (1885)		15歳	隣村の小学校に転任し、月給3円となる。 岐阜華陽学校師範部に入学する。
" 22年 (1889)	12月	20歳	華陽学校師範部を卒業し、同校付属小学校訓導となる。
" 25年 (1892)	4月	22歳	上京して東京高等師範学校に入学し、博物学を専攻。
" 28年 (1895)	3月	25歳	東京高等師範学校を卒業、兵庫県立師範学校教諭となる。
" 29年 (1896)		26歳	岐阜師範学校教諭に転ずる。
" 32年 (1899)	4月	29歳	再び上京して東京高等師範学校付属小学校訓導となる。
" 36年 (1903)	11月	34歳	東京高等師範学校教授となる。
" 39年 (1906)	1月	36歳	東京高等師範学校付属教育博物館主事を兼務する。
" 42年 (1909)	10月	40歳	文部省より教育学および博物館研究のためドイツ・アメリカへ2カ年留学を命ぜられる。
" 45年 (1912)	1月	42歳	アメリカを経て帰国する。
大正 3年 (1914)	6月	45歳	東京教育博物館々長事務取り扱いとなる。
" 6年 (1917)	5月	47歳	文部省督学官となり、東京教育博物館長を兼ねる。
" 10年 (1921)	6月	52歳	東京博物館々長となる。
" 13年 (1924)	1月	54歳	東京博物館々長を退職する。
" 14年 (1925)	1月	55歳	文部省より社会教育ならびに博物館研究のため1カ年フランスに留学を命ぜられる。
" 15年 (1926)	1月	56歳	帰朝後退官し、赤十字博物館創設事務を委嘱される。
昭和 3年 (1928)	3月	58歳	博物館事業促進会専務理事となり、「博物館研究」の編集にあたる。(4月に第1号出版)

昭和 6年 (1931)	6月	62歳	社団法人日本博物館協会理事となる。
" 17年 (1942)	12月	73歳	赤十字博物館々長となる。
" 21年 (1946)	4月	76歳	赤十字博物館々長を退職する。
" 23年 (1948)	6月	79歳	東京科学博物館評議員となる。
" 24年 (1949)	9月	80歳	東京国立博物館評議員となる。
	12月		国立科学博物館評議員となる。
" 25年 (1950)	12月	81歳	文部省博物館法案審議会臨時委員となる。
" 26年 (1951)	11月	82歳	日本博物館協会顧問となる。
" 27年 (1952)	6月	83歳	文部省社会教育審議会委員となる。
	7月		東京芸術大学第1回学芸員講習会講師となる。
" 28年 (1953)	4月	84歳	立教大学博物館学講座講師となって、再び教壇に立つ。
" 31年 (1956)	3月	86歳	文部省学芸員国家試験委員となる。
" 33年 (1958)	5月	88歳	多年の社会教育への功勞に対して藍授褒章を贈られる。
" 34年 (1959)		89歳	国際博物館会議 ( I C O M ) の名誉会員となる。
" 35年 (1960)	3月	90歳	立教大学博物館学講師を退職する。
" 36年 (1961)	4月3日	91歳	腸閉塞のため東京駿河台杏雲堂病院で逝去する。

## 棚橋源太郎先生著作目録

(博物館関係のみ集録・他に多くの論文や教科書がある)

目に訴える教育機関	菊判	449ページ	宝文館	昭和 5年 (1930)
郷土博物館	46判	274 "	刀江書院	" 7年 (1932)
郷土博物館建設に関する調査	A5判	16 "	日本博物館協会	" 17年 (1942)
大学専門学校に於ける現存する設備の博物館的公開利用の提唱			"	" 18年 (1943)
本邦博物館発達の歴史	A5判	31ページ	"	" 19年 (1944)
再建日本の博物館対策	"	15 "	"	" 20年 (1945)
地方博物館建設の指針	"	17 "	"	" 22年 (1947)
観光外客と博物館並に同種施設の整備充実		20 "	"	" 22年 (1947)
世界の博物館	B6判	234 "	講談社	" 22年 (1947)
博物館 (社会科文庫)	"	242 "	三省堂	" 24年 (1949)
博物館学綱要	A5判	334 "	理想社	" 25年 (1950)
博物館教育	B6判	256 "	創元社	" 28年 (1953)
博物館・美術館	"	184 "	長谷川書房	" 32年 (1957)

## 科学館はなぜ一歩進みえたのか (3)

日本モンキーセンター付属博物館 学芸部長 広瀬 鎮

### Ⅳ 地方科学館の一例

#### 大垣市児童文化センター

ここで、大垣市における、小規模な理工学系博物館(科学館)活動の例をとりあげてみよう。同館においても、展示の中心は、理工学産業の現象、原理の展示で、実験装置や解説装置は一手段にしかすぎない。展示点数は70余点で少ない方である。科学館の展示点数をくらべてみると、旭川市青少年科学館で58点、市立名古屋科学館455点、交通博物館で103点、科学技術館で500点というのが現状である。この児童文化センターも、他の施設同様に社会教育事業に関しては教化性のつよいものをもっており行政中心の事業が、企画され、大垣市に限った地域中心のものが主流をしめる。対象は、青少年が中心であり、個人よりも団体中心利用をより第一義的に考えている。

しかし、教育事業の立案は自由な立場からなされ、必要経費の不足を、図書館などの他の社会教育施設と結びつけ、有機的に利用している点は注目されるべきであろう。現在大垣市は人口135,000人をこえ、社会教育費中児童文化センター費は年間1,629,000円(昭和45年)職員6名、その他講師4名を有しているが、この児童文化センターは、昭和30年7月に社会教育事業の一環として設置されたものである。その目的とする所は全国の理工学科学館と同様である。

1階に交通産業関係、2階に文化生活、3階に工作室、ホール、児童読書室、学習室が設備されている。年間利用者は約6万人、1日平均200名の利用者中、小・中学生が大半である。科学教室は小・中学生の希望者をつのって、科学的思考、観察力、工作力の養成を行なっているが、学校教育補助的性格がつよい。電気子供会、図画教室、理科教室、緑を育てる会、アマチュア無線の会の5活動、映画会、星座教室、子供のつどい、児童閲覧室、展示会・作品展等もおこなわれ、年間57回の事業実施一般利用者は11,000人をこえており、意欲的な教育プログラムをもっている。これら社会教育事業の

特色は、児童・生徒を対象としていること、集団生活のルールを守る教育指導、趣味同好の集いの場、サークル学習プログラム等の企画がすすめられている点に求められる。都市に大型化、デラックスな科学技術館が設置されている今日、地域にある小型科学館は今後、如何にそれら都市型専門施設と提携していくか大きな課題がある。大型化の前にこのような充実した活動体をもっと発展させるような博物館行政の協力がなされないことは何としても残念なことである。

現在、この児童文化センターは学校教育との一層の連携を求めているか、むしろ困難な道ではあるが、地域住民の要求の上に立ち生活科学の中心センターとして、企業化、営利化されない公共、公有の知識、科学情報をおし気なく社会へ還元、放出するといった施設、文化機関として発展すべきであろう。規模の大小を論ずる前に、こうした専門施設を社会教育の各専門家が支援し、利用に対する協力体制をつくりあげ、諸活動の発展をうながすべく力添えをしなくてはならないのではなからうか。それは、地域、地方をこえた全国的な社会教育事業協力の運動のなかではじめて可能となるにちがいない。

以上理工学科学館の諸事業、また、今日の現代社会に占める役割りに注目して、これら施設の社会教育事業の評価の重要性に気づかされたのであり、社会教育行政への直接的要請もさることながら、我々は博物館という社会教育施設は更に大がかりに地域をこえた専門施設間相互の協力による事業交流や、利用への開放活動を試みる必要のあることを痛感させられたのである。

科学館はなぜ博物館教育を一歩他の博物館にくらべて、先へすすみえたのであろうか。それは、元来、教育型の施設であったからであらうか。科学館は単にノン・キューレトリアル(非研究型)なものとして片づけてはならない問題が、多く今後生じてくるのではあるまいか。

(完)



ほとばしる情熱の人

土田吉左衛門さん



今回は、飛騨集古館の土田吉左衛門先生を電話でインタビューしました。先生は、多年郷土史をご研究され、数々の著作を世に出された飛騨の歴史学者ですが、昨年12月6日より14日間、国立社会教育研修所での「博物館職員講習」に積極的に参加され、ご高齢にもかかわらず、その博物館学研修への熱意と学究的態度は、全国からの参加者ならびに講習会実施側の国、および窓口の県教委社会教育課の注目と絶賛の人となられ、「岐阜に土田先生あり」とウナラせたほどでした。

#### 飛騨考古館の設立を

質、講習会ご苦労さんでした。ご感想は？

◎私は最年長者で、無条件に幹事長をやれということでしたが、とにかく皆さんがもう熱心に勉強され、ただ敬意をばらうばかりでした。

質、先生も岐阜県の博物館界の人という立場で、今いちばん訴えたいことは、どんなことでしょうか。

◎戦後飛騨地方だけでも、いわゆるミニ博物館がどんどんできています。こんなことを云うといろいろさしさわりがあるかもしれませんが、群雄割拠しててんでに見せているという感じが、そこに学問的な組織化も体系もないのが残念です。飛騨には石器も多く出ますし、まだまだ各家庭に眠っていたり、とにかく考古資料を集大成して、体系的な飛騨一円の考古館にまとめたいものです。石器のことなら飛騨へ行って研究しろ……とまでいわれるぐらいのコンクリートづくりのものを。まだまだミニ施設ばかりで、問題にならん現状ですよ。

これからの飛騨考古学

質、考古学的な面での、飛騨地方の特色とかその研究の進み具合はどうなんですか。

◎今私は、宮川村誌を書いているのですが、いろいろ土地の石器を調査していて、ブレ縄文のものを発見もしました。県の遺跡目録には、旧石器時代の遺跡は、飛騨では下呂町の竹原と高根村の池の原の二ヶ所しか記録されていませんが、飛騨には、まだまだたくさんあると信じています。私自身も、二ヶ所ほど発見し、南山大学の早川先生にも間違いないと見ていただきましたが、……このようにかくれた遺跡もまだまだ多くありますし、石器自身の分類すら確立されておらず、もっともっと研究すべきことがいっぱいということ。そのためにも、考古学研究の殿堂としても、今、あちこちにある資料を集大成して飛騨考古館を実現したいものです。

#### 教育事業に援助を

質、先生は、多年、そうした貴重な資料の散逸を心配され、研究とともに収集され、それを今は、少しでも社会に役立てようと公開されているわけですが、過去のご苦労をふまえられて、社会教育行政とか、生涯教育行政について何かひとこと？……

◎私自身は、個人の収集品を、4~5000点ぐらいですか、飛騨集古館に展示しているのですが、社会へのサービスに、自分の生きがいを感じております。しかしこれも、私は教職の身から退職し、恩結もいただいて老後の第二の人生としてとりくんでいるからこそ、無料奉仕もでき、別に金をもらおうとか、補助をお願いしよ

うとかの気持ちはありませんが、やっぱり個人では、資力に限りがありますし、全てのミニ博物館に同じ立場や社会奉仕を期待してはいけません。無いそでは振れませんし、そうした社会への一種の公教育的事業には、当然国や県の補助ということが望まれます。資料維持管理には金もいりますし、生計も立てなくちゃなりませんし、純粋な教育的な立場から、解説書や研究成果の小冊子を発行するために、県がどんどん補助金で印刷してくださるようなこと、そういう地方のミニ博物館の文化活動を育てることが、地方に生きた文化を育て、ほんものの文化生活が期待できると思います。

### ミニ博物館の団結を!!

質、先生のように、ほんとうに純粋に社会への貢献、知的レジャーに答えようとされている、ことばは悪いのですがミニ弱小博物館の経営は大変なことですが、そうしたものを育て、明日の社会に生きて働くためには、具体的には?

◎やっぱり、ミニ博物館同志が一致団結し、岐博協のような組織の中で、地方地方の文化を育てるために、どうしても必要なこと、補助金制度なりを、どんどん県側などへも要求していく必要を感じます。私の立場は、特別ですが、生涯教育のわくの中で、生きて働らく施設の充実のために、ミニ博物館や個人の犠牲的奉仕にまっぴかりいては、文化県が立きます。

質、さいごに、先生が今いちばん関心をもたれ

ていることなどを。

◎飛驒地方一帯を、私はオートバイですがかけずりまわって、各地に残されている考古資料をはじめ遺跡などを、実際自分の目で調べることが楽しくてなりません。そんなことが好きで、土器、石器、遺物などを研究することに、老後の生きがいをもって人生を楽しんでいるわけなんです。

わずかな時間での電話インタビューでしたが、受話器から流れる声は、博物館を通しての社会奉仕に燃える男の情熱に満ちあふれ、その基調にある精神は、まさに若々しい青年そのものという印象でいっぱいでした。生命ある限り、学び続け研究に熱中される先生こそは、まさにこれからの未来社会が求める生涯学習人……の模範であるばかりか、かけがえのない博物館界の巨星でもあります。ますますご健勝でご活躍下さり、岐阜県博物館協会のためにご尽力下さることをお願いし、ここにあらためて敬意を表したいと思います。先生の著作の中から一部を紹介します。

1. 飛驒のことば A 5版 700 ページ余

1. 飛驒の史話と伝説 A 5版 700 ページ余

1. 国府町の文化財 A 5版 300 ページ余

1. 飛驒の民謡 A 5版 400 ページ余

先生のご住所は、

〒506 高山市天満町二丁目です。

## 論壇

### 社会教育機関としての博物館への期待 (1)

博物館学専攻大学生 美濃羽 寿

#### 変遷する社会教育

我々は今、二十世紀後半という厳しい現実の中を生きようとしている。情報化という言葉で代表される複雑多岐化した社会情勢は、殆んど、人間の受容能力を圧倒しそうな状態ですらある。人間が人間のより良い生活の為に創造した幾多の“物”が、本来の目的とはかけ離れた効果や影響力を持ち始めようとしているのだから、

それらの予想外の事象にどう対処すべきかという(殆んど当惑にも似た)要求からも、社会教育の役割は注目されなければならないし、その重要性は増そうとしている。

社会教育について、一口で述べるのは困難なことである。定義からして問題であろう。唯はっきり言えることは、教育という機能が人間によって、人間の為に行なわれる、極めて人為的

な営みである以上、それは常に社会生活の変遷と共に変り得るものであり、結局何人をも納得させ得る決定的な理論や方法は今迄なかったし、現在もないし、おそらくは今後も現れはしまいということである。にも拘らず我々は、教育の場に於て（他の様々な営みと同じように）あるべき姿について、どこかに期待したい気持ちが絶えずあるとするなら、自分の身近な事柄について考察し、改善して行くという事から始める以外に方法はないであろう。

### 近代化とは

そのように考える視点と契機を、私は海外を旅行し、様々な事柄に接することで得たと思う。（個々の印象については、余りに個人的になるので避けたのだが。）最も大きな印象は実生活のかなりの部分で物質文明を代表とする、近代化もしくはアメリカ化（この用語は適当ではないかも知れないが……）が確実に進行している事実だった。なるほどイデオロギーや国家姿勢として、社会主義や共産主義を標榜している国々も増えつつあるし、資本主義は末期的症状を呈し始めているとも言われている。現にそのような事実を私自身何度か垣間見たりもしたのだが、それでも尚、アメリカをその象徴とする、物質文明化、機械文明化が時代の波として最も顕著に目立ったのだった。近代化するイメージは、物質的充足、生活の機械化と同意と解して良さそうである。そんな印象の中で私が考えたことは次のような事である。

1. 事情はいくらか異なるにせよ、機械化、物質化、情報化を中心とする近代化は、やはり確実に進行するだろうということ。
1. 物質文化に対する消費性向は、理論はともかく、洋の東西を問わず社会体制の如何に関りなく、やはり止まることはないであろうこと。
1. “近代化、”という、いわば長い間、社会目的でさえあった概念が、必ずしも我々を幸福にはせず、そして必ずしも正しい選択ではなかったことを、ようやくにして我々は悟ろう

としていること。

1. そして今、考えようとしている“教育、”や“社会教育、”などという概念も、（その性質はともかく）社会全体が近代化しており、しかも或る種の豊かさかもしくは余裕を有する状態で、始めて可能であるということ……などです。

何故なら、普通我々は強大な機危意識や圧迫感の下では、自らの内部を冷静に省察する余裕など有し得ないからである。

### 未来を先取るために

全ての合目的な行為がそうであるように、社会教育の中でも我々は、結局来たるべく明日への可能性なり、生活への指針を見出そうと、模索しなければならないのであろう。

私は旅の中で遭遇し考えた中から、少くとも、社会教育の一方の目的は、取捨選択の為の建設的な努力でなければならないと改めて確認したのである。私達は“近代化、”という言葉とともに成り来り、或はなさねばならなかった多くの選択が必ずしも正しくはなかったことを、今、多くはその悪い結果を見る事で知り、いくらか混惑した状態に陥入っており、殆んど処理出来そうもない雑多な情報も、充分には消化できない。しかし社会生活という営みから逸れられない以上、私達の将来はいつも、何をどう、世代人として選択出来るかに、かかっているからである。その選択の基準を、私は凡ゆる社会生活の基礎であるべき、ヒューマニズムの再確認以外にはないと考えている。それを理論や机上の論議ではなく、与えられた環境の中で各自が努力し、積極的に参加することで果さなくてはならない。社会教育という広範な教育活動の中で私は博物館の持つ機能や役割に大く期待したいと思うようになった。何故なら綿々と続いて来た過去の社会生活を省察し、その中から将来へのより確かな指針を得ようとする総合的な機能を有する施設は学校を除けば、博物館を外して他に多くはないからである。

### 総合的な物の見方を求めて

無論、博物館はその設立目的によって、異なる性格を持つが、その活動を通じて多かれ少なかれ、現実の生活への具体的な貢献(フィード・バック)がなされるべきで、自然科学系の博物館の充実と同時に、以上述べて来た理由から、広汎な科学学習のオーガナイザーとしての総合博物館の整備も急がれたい。(その意味で今度の岐阜県政百年記念博物館に多くを期待したい)近代博物館の目的の第一義が社会教育施設としてのそれとするなら、機能を果たすべくアプローチの方法や手段は、変化に富んでいて

も良いだろう。自然科学系とか、人文科学系などと、とり立てて区別するセクト主義は早く撤回したい。私の希望が「生物資源論」であることもあり、出来れば、農業技術的な面だけでなく、消費性向も含めた、栽培植物と食糧問題について考察してみたいと思う。

益々複雑多岐化し、情報が混乱しようとしている中で、博物館も与えられた条件の中から、社会生活に対する、はっきりした方向を打ち出さねばならぬ時期に来ているのではないだろうか……? (続く)

## ≡ 県内ニュース ≡

### 瑞浪化石博物館， 登録博物館に

これまで博物館類似施設であった瑞浪化石博物館は、法的手続きと審査を経て、正式に登録博物館に昇格致しました。これを機に、いっそうのご発展と教育活動・研究推進が望まれます。

### 文献「性神の性的展示」

本協会理事長 吉田幸平 文学博士は、全国各地の性的展示コレクションを見てまわれ、性神信仰の展示上の留意事項を副題として、上記のテーマで小冊子を発刊されました。宇和島凹凸寺から下田の了仙寺など、性的展示の印象を九例紹介され、展示経営上の注意事項、収集法についてなどがまとめられている。資料入手希望者は、直接吉田氏まで問い合わせられたい。

〒500 岐阜市岩戸花月町

### 自然資料館計画立案中

岐阜県企画部観光課では、余暇の増大する時代の流れにこたえ、「ひろく国民のための休養の場とし、青少年の教化施設とする」ことを主旨とした「自然資料館(展示室約300㎡)」を

立案、場所は東濃、保古の湖で、目下建物と展示内容を検討中。

自然関係の博物館施設が少ない本県だけに、特色ある自然資料館の早期実現が期待される。

### 編集後記

- ★ 新年の暮明けとともに、岐阜県の誇り、博物館の父「棚橋源太郎先生」を紹介しました。岐博協の輝やかしい今日の歩みを、いっそう充実発展させるために、……
- ★ 今年は編集子の年、ウサギです。協会結成15周年も間近かです。棚橋先生の輝やかしい業績をしのびつつ、今年は岐博協の一大飛躍の年といたしましょう。
- ★ 広瀬先生のご労作が完結しました。と同時に、若き青年個人会員の美濃羽君から、はつらつとした論調で、明日をみつめるまなざしで、「博物館」に期待する労作をいただきました。次回をもご期待下さい。
- ★ 今回の博物館人広場は、はじめて電話訪問を試みてみました。こんな人を、この人を……というご要望を、どしどしお知らせ下さい。
- ★ 堅い感じの新年号となりましたが、その内容は格調高いと自負しています。

(小野木)